

紅毛管甚長、有三四尺者、

〔煙草考〕烟管

按本邦烟管處々造焉、京師大佛門前三條橋東、江州水口、同州坂本、及四十九院肥前後兩州、與州仙臺、此最有名、而大佛管遍寰宇、其製各少異、其形容又有後藤竹肥後尺書院數奇屋公平鶴、小柳、檜花野、老土佐、小雀、懷中、中續曆卷管、小泉、倒輪、隱居、二朱、問屋、瓢箪等之品、其形容不同也、又盛烟有可多裝一倍、可多裝兩倍者、漢人謂一筒不能悉記矣

〔嬉遊笑覽十上〕近頃異ざまなるきせる出きぬ、雁首吸口は常の如く、らうの處内ははりがねにて卷たるにや、表はちりめんなどのきぬにて包めり、長さ五六尺より一丈に至るもあり、繩の如く卷きも伸もすべし、遊山などに携へて、木の枝に打かけまといひ付ても、烟草を吸ふべし、只一時の興にて、脂をとほすこともならねば、やがて廢りぬ、

〔蔦錄中〕煙具諸圖雜載

東野ト作島所用管材未刻大頭且穿通中心者、長一尺五分七分、木名未詳○圖略

〔煙草考〕烟管

紅毛管甚長、有三四尺者、中又不用管、將全葉去中筋、分爲兩片、重卷如管、一頭點火、從一頭吸之、此

謂卷淡婆姑、

〔蔦錄中〕煙具諸圖雜載

卷答跋菰管

以銀造之、潤口之處插烟、狹口之處吸之、是洋船隸夫所用云、余大槻嘗得諸和蘭譯官九臯檜林氏、

○圖

卷答跋菰圖略、享和元年辛酉八月、印度南島低木兒船、深著我肥前州五島、其漂客等所用、包紙烟圖

